

福島第一原子力発電所の状況

平成 24 年 12 月 27 日
東京電力株式会社

< 1. 原子炉および原子炉格納容器の状況 > (12/27 11:00 時点)

号機	注水状況		原子炉压力容器 下部温度	原子炉格納容器 圧力*	原子炉格納容器 水素濃度
1号機	淡水 注入中	炉心スプレイ系:約1.9m ³ /h	21.9	107.4 kPa abs	A系: 0.06 vol%
		給水系:約2.4 m ³ /h			B系: 0.04 vol%
2号機	淡水 注入中	炉心スプレイ系:約3.6m ³ /h	35.7	4.73 kPa g	A系: 0.05 vol%
		給水系:約2.0 m ³ /h			B系: 0.05 vol%
3号機	淡水 注入中	炉心スプレイ系:約3.4m ³ /h	35.8	0.26 kPa g	A系: 0.19 vol%
		給水系:約1.9 m ³ /h			B系: 0.17 vol%

* 絶対圧(kPa abs) = ゲージ圧(kPa g) + 大気圧(標準大気圧 101.3 kPa)

< 2. 使用済燃料プールの状況 > (12/27 11:00 時点)

号機	冷却方法	冷却状況	使用済燃料プール水温度
1号機	循環冷却システム	運転中	10.5
2号機	循環冷却システム	運転中	11.7
3号機	循環冷却システム	運転中	9.7
4号機	循環冷却システム	運転中	21

* 各号機使用済燃料プールおよび原子炉ウェルへヒドラジンの注入を適宜実施。

< 3. タービン建屋地下等のたまり水の移送状況 >

号機	排出元 →	移送先	移送状況
1号機	1号機 タービン建屋	→ 2号機タービン建屋	12/27 9:13 ~ 12/27 14:40 移送実施
3号機	3号機 タービン建屋	→ 集中廃棄物処理施設 [雑固体廃棄物減容 処理建屋 (高温焼却炉建屋)]	12/18 14:00 ~ 移送実施中
6号機	6号機 タービン建屋	→ 仮設タンク	12/27 10:00 ~ 15:00 移送実施

< 4. 水処理設備および貯蔵設備の状況 > (12/27 7:00 時点)

設備	セシウム 吸着装置	第二セシウム 吸着装置 (サリー)	除染装置	淡水化装置 (逆浸透膜)	淡水化装置 (蒸発濃縮)
運転状況	停止中	運転中*	停止中	水バランスをみて 断続運転	水バランスをみて 断続運転

* フィルタの洗浄を適宜実施。

・H23/6/8~ 汚染水・処理水を貯蔵・保管するための大型タンクを順次輸送、据付。

・H24/12/26 10:10 頃、淡水化装置(逆浸透膜式)3のジャバラハウス内において、協力企業作業員が、水が漏れいしていることを発見。同日 10:16、当該淡水化装置3を停止し、漏れいが停止したことを確認。水が漏れいした範囲は約1m×約5m×約1~2mmで堰内に留まっており、ジャバラハウス外への流出はない。当該淡水化装置3周辺の雰囲気線量率を測定した結果、ガンマ・ベータ線が2mSv/h、ガンマ線が0.5mSv/hであった。漏れい箇

所の雰囲気線量率も同等の測定値であることを確認。また、漏えいした水の放射能濃度を分析した結果、セシウム 134 が $3.4 \times 10^{-1} \text{Bq/cm}^3$ 、セシウム 137 が $5.5 \times 10^{-1} \text{Bq/cm}^3$ であることを確認。

漏えい原因は、協力企業作業員が同施設内の防凍用シート養生の手直し作業中に誤ってベント配管にシートを接触させ、当該箇所を破損したことにより水漏れが発生したものと推定。

- H24/12/27 15:09 漏えい箇所の前後弁を閉止により隔離し、他の移送ラインのベント配管およびドレン弁状態に異常がないことを確認したことから、健全性を確認した移送ラインを用いて、同装置を起動。

<5. その他>

- H23/10/7～ 伐採木の自然発火防止や粉塵飛散防止のため、5, 6号機滞留水の浄化水を利用し、散水を適宜実施中。
- H24/2/23～ 6号機サブドレン水について、一時保管タンクを経由した、仮設タンクへの汲み上げ試験を実施中。
- H24/3/6 ～ 5号機サブドレン水について、一時保管タンクを経由した、仮設タンクへの汲み上げ試験を実施中。
- H24/4/25～ 地下水による海洋汚染拡大防止を目的として、遮水壁の本格施工に着手。

以上